コーチングとは自己とキャリアにおいて認識・発見・成長を促す　変容のプロセスである。

The Coaching Masteries ®

IAC コーチング・マスタリー*

IAC のビジョン:
コーチングをあらゆる面で卓越した最高水準に発展させること。

IAC のミッション:
コーチングという職業をマスタリーの実践を通して発展させるための厳格な認定プロセスを設定すること。

*マスタリー：熟練を通して達成された高度な技能。達人の技術。

© 2007 International Association of Coaching ®

The Coaching Masteries ®

***

信頼関係の構築と維持

***

潜在能力の探索、肯定、拡大

*** 傾聴

***

「この瞬間」における観察と処理

*** 表現

***

明確化

***

明確な意志の設定と持続

***

可能性の拡大

***

クライアントの支援システム・構造の構築と活用

#1. 信頼関係の構築と維持

定義

個人的な成長、気付き、変容を促す安全な場と協力的な関係の確保。

効果

1. クライアントが、気軽に意見交換ができる。
2. クライアントが、コーチを自分の理解者であると認識している。
3. クライアントが、自分が無理なく変容、成長できると実感する。
4. クライアントが、コーチングの結果と責任について、現実的に理解している。

キーポイント

1. 相互的な尊敬と受容
2. 自信と安心
3. クライアントが、コーチから評価や判断を下されることなく、安心して自分の不安を語ることができる感じている。

相違点

© 2007 International Association of Coaching ®

- 協力的 対 共同的受容と支
- 援 対 寛容 自信 対 尊大
-

効果的な行動の例コーチは:

1. 能動的に傾聴している。
2. 自分自身の人間的限界を認めた慎みのある態度をとっている。
3. 恐れや疑いの徴候に敏感である。
4. 変化に対する不安、疑い、恐れが対処可能であることをクライアントに納得させている。
5. 隠れた希望や夢が明らかになってくるような質問をしている。
6. 徹底的で挑戦的な質問を投げかけている。クライアントはそれに率直に反応している。
7. よりよい質問やコーチングの新しい方向性についてクライアントからの提案を歓迎している。
8. 言葉と行動に誠実である。
9. 信頼が欠如したり、妨げられている部分を観察し、率直に話し合っている。

非効果的な行動の例コーチが:

1. 誘導質問や限定質問のような非効果的な質問を投げかけている 。
2. クライアントから提案を求めていない。
3. クライアントに制限を加えている。意欲的な選択を促していない。
4. 「見栄え」を良くしようと試み、好かれようとしている。
5. 意見を押し付けている。
6. 評価・判断をあからさまにしたり、あるいはそれを示唆している。

マスタリーを修得したコーチの特徴

1. クライアントが自主的に心配や不安を話している。
2. クライアントが挑戦的な質問や洞察に前向きに反応している。
3. コーチングの文脈の中で、クライアントが大胆な野心や夢を語っている。
4. 必要に応じて、コーチは自分の限界を認めている。
5. クライアントが感情を自由に表現している。
6. クライアントがコーチを受け入れている。

コーチによくある間違い:

- コーチング関係やコーチングへの期待に適切な境界線を引いていない。
- クライアントからの許可を取らずに、思い込みや信念にいきなり挑戦する。
- 権威であろうとしている。または権威でなければならないと考えている。
- 自分の意見を押し付けている。
- セッション中、クライアントに嫌われないように遠慮している。
- コーチングセッションではなく、友人同士の会話に終始し、セッションを当たり障りのない雑談にしている。

© 2007 International Association of Coaching ®

- クライアントから褒めてもらおうとしている。
- クライアントに全てを任せ、またそうするべきと考えている。
- クライアントに全ての答えを期待している。コーチとクライアント、またコーチング関係自体が、答えを共に創出し、共に発見していくものであるという認識がない。
- 企業でのコーチングにおいて、企業や組織の期待をしかるべき時に採り上げていない。
- コーチングのプロセス、コーチ自身、そしてクライアントを信頼していない。
- クライアントがコーチに過度に依存することを許容している。

マスタリーを修得したコーチの特徴:

- クライアントが、未知の領域にあり、多少怖く感じるような話題を意欲的に探究している。
- コーチングの境界線についての話し合いがあり、クライアントもそれを了承している。（このことは、企業や組織におけるコーチングで、上司への報告がコーチング契約の一部になっている場合、特に重要である。） コーチは洞察力に富み、挑戦的であるが、クライアントは不安を感じず、敬意を
- 払われていると実感している。
- クライアントがコーチの発言に反対である場合、セッション中にそれを伝えることができている。
- コーチは、クライアントからの同意を必要、期待、あるいは強要することなく、意見や考えを話すことができる。
- コーチがクライアントを信頼しており、そのことがクライアントの自信につながっている。
- コーチがコーチングの効果を信じており、たとえ次に何をすべきか、話すべきかが不確かなときでも自信を失うことがない。
- コーチがその一挙一動、あるいはコーチがしなかった事、言わなかったことすべてが信頼醸成に影響を与えることを認識しており、この認識を戦略的に利用する。
- コーチとクライアントの間に力の不均衡を作り出さないし、またはそれを容認しない。

#2.潜在能力の探索、肯定、拡大

定義

クライアントの強みと可能性を認識し、またそれをクライアント自身が認め、正しく自己評価できるようサポートする。

効果

1. クライアントが自分の能力と可能性に対する自己評価を高めている。
2. クライアントがこれまでより自発的に現在の枠組みや戦略を超えた行動を取ろうとする。

キーポイント

1. クライアントへの共感
2. より広い範囲の可能性の認識
3. クライアントに対する激励と自信の強化
4. 制限的な思い込みへの挑戦
5. クライアントの強みを認識し、クライアント個人の目標及び組織の目標（企業環境にある場合）にその強みがどのように貢献するかを理解している。

© 2007 International Association of Coaching ®

相違点

- 「信じる」対「断定する」
- 「可能にする」対「強制する」
- 「拡大する」対「引き延ばす」

効果的な行動の例コーチは:

1. 誠実な励ましを与えている。
2. クライアントの潜在能力に対する信頼を表している 。
3. クライアントの成功に、責任を持って関っている。
4. クライアントの態度や行動について前向きで具体的なフィードバックを与えている。
5. クライアントの能力、強み、才能、知識、経験を再認識させている。
6. クライアントの最大限の可能性を呼び覚ましている。
7. 後世への足跡を残そうというクライアントの欲求を引き出している。(それがふさわしい場合)
8. クライアントの潜在能力をクライアントの組織内で考えられる機会や資源と結びつけている。

非効果的な行動の例

コーチは:

1. 囃したり、大げさな、あるいは形ばかりの熱意を示す。
2. クライアントが持っている思い込み、限界、障害に関心を示すのではなく、受け入れてしまっている。
3. クライアントの許容範囲を超えた挑戦をし、クライアントを落胆させている。
4. 支援を装いつつ、自分の主張を押しつけている。
5. クライアントを操っている。
6. クライアントを悪者にしている。
7. クライアントが依存してしまう環境を作ったり、それを助長している。
8. クライアントを文化的に不適切な行為に導いている 。
9. クライアントに対する信頼を示していない。

マスタリー修得の指標

1. クライアントはもはや躊躇しておらず、前進することに意欲的で、行動を計画し、それを語っている。
2. コーチはクライアントの以前の安全地帯を越えたところでの行動を促している。(それがふさわしい場合)。
3. クライアントの自信は強化され、自分の責任を受け入れている。
4. クライアントはやる気があり、宿題を完了している。
5. コーチはクライアントの最大限の可能性を呼び覚ましている。
6. クライアントは自分の潜在能力を認識している。
7. クライアントは自分が認められ、理解されていると実感している。

© 2007 International Association of Coaching ®

8. クライアントは自分を制限している行動、思考、信念を認識している。

コーチによくある間違い:

- 囁したり、見下したり、子供扱いしている。
- もっとこうあるべき、もっとこうするべき、とクライアントに強要している。
- クライアントの制限的な思い込みや信念、あるいはクライアントの望みと矛盾する思い込みや信念をすんなり受け入れてしまう。
- コーチがクライアントにとっていいと思うことをクライアントに実行させようとしている。
- クライアントのあり方や将来性よりも、行動と結果だけでクライアントの価値や潜在性を測定したり評価している。

マスタリーを修得したコーチの特徴:

- コメントや質問を通して誠実な励ましを自然に差し伸べている。
- クライアントが自分自身と、自分の潜在性を発見し、それを表現する機会を設けている。
- たとえ自信に溢れたクライアントでも、コーチに期待しているのは、ポテンシャルの探索、肯定、拡大だと認識している。
- クライアントは自分の大きさや可能性を認識し、受け入れ始めている。
- クライアントの行動や結果よってクライアントの価値(またはコーチの価値)を判断していない。
- クライアントの強みと、クライアントの自己目標(企業環境ではスポンサー企業の目標)の接点を認識することができる。

#3. 傾聴　定義

クライアントが発する言葉、ニュアンスおよび「言葉にならない言葉」に完全な注意を払う。コーチはクライアントが言葉で表現できる範囲を超えた傾聴によって、クライアントの不安や問題の核心をより深く認識する。

効果

1. クライアントは、断じられるのではなく、理解され認められていると感じる。
2. クライアントは、リラックスし臨機応変に話ができる。

キーポイント

1. コーチは、クライアントの言語表現と非言語表現の両方に焦点が合っている。
2. コーチはクライアントが言葉で表現できる範囲を超えて聴く。
3. コーチはクライアントの発言(言葉)と行動や感情との食い違いに敏感である。

相違点

- 「傾聴する」対「聞く」
- 「気づいている」対「先回りする」
- 「引き出す」対「誘導する」

© 2007 International Association of Coaching ®

効果的な行動の例コーチは:

1. 言葉を使わず、あるいはごくわずかな合図だけで、クライアントが考えをまとめ、反応する機会を与えることができる。
2. クライアントの発言や挙動の中の微妙なニュアンスを察知する。
3. クライアントに発言を再確認する機会を与え、クライアントとのコミュニケーションを確認している。
4. クライアントの発言(言葉)と行動や感情との食い違いを指摘することができる。
5. クライアントのニーズや関心に応じて、適切なコーチング法を使い分けている。

非効果的な行動の例コーチは:

1. 話を不適切に中断したり、クライアントの頭越しに話をする。
2. 建設的な沈黙を活用していない。(クライアントが話し終わるとすぐに話し出す等)
3. クライアントのコミュニケーションの中にある深いポイントを見逃している。
4. 重要な何か無視している。
5. ニーズに合ったコーチング法を用いず、一般的で型通りのアプローチをしている。
6. 多次元でクライアントを傾聴せず、自分を主張することに集中している。

マスタリー修得の指標

1. クライアントの口調と思考の流れが、より開放的で自然になっている。
2. クライアントが思考や発見を吟味する時間が十分に与えられている。
3. コーチは、それがふさわしい場合、クライアントの無言のコミュニケーションを確認する。
4. クライアントの無言のコミュニケーションに対するコーチの観察をクライアントが確認している。
5. 適切な場面で、コーチはちょうど良い長さの沈黙を用いる。
6. コーチがクライアントを特定の方向に導いていない。

コーチによくある間違い:

- 沈黙に不安を覚え、クライアントが沈黙した時、何か話さなければならないと考える。
- クライアントが意味するところを理解していると思い込んでいる。
- コーチとしての「正しい」行動が何かを知らなければと神経質になる。
- クライアントが話している最中、自分が次に何を言うかを考えている。
- クライアントの表現が、本当に言わんとしていることや感情とマッチしてないのに、それに気づいていない。(笑いながら、いかに怒っているかを話している場合など。)
- クライアントの言葉の深い意味を傾聴していない。額面どおりに受け取って、コミュニケーションの深層レベルに注目していない。

マスタリーを修得したコーチの特徴:

- 限られたコーチング法に頼らない。むしろ、クライアントの必要に応じ、臨機応変にコーチング法や戦略を使い分けている。

© 2007 International Association of Coaching ®

- クライアントが黙ってしまっても、クライアントが情報を処理している最中だと認識し、沈黙に動揺することがない。
- 沈黙が有効なコーチングスキルでありうることを理解している。
- コーチの「パフォーマンス」ではなく、クライアントのニーズに焦点を合わせている。
- クライアントの思考パターンを認識するのと同様に、自分自身の思考パターンを認識している。

#4. 「この瞬間」における観察と処理

定義

クライアントの思考、体、心、精神の各レベルにおいて情報を処理し、クライアントに完全な注意を払う。コーチは、各レベルにおけるこうした思考や問題をどう体験するかについて、適宜、クライアントの認識力を高める。コーチはセッション中に起きていること（クライアントの行動、パターン、感情、コーチとの関係、等）を反映することで、クライアントの自己認識を高め、前向きで的確な行動を促す。

効果

1. クライアントは、 今自分に起きていることを自由に表現し、それに取り組むことができる。
2. クライアントは、過去や未来のこだわりや心配から解放されている 。
3. クライアントは、全てのレベルにおいてコーチングの洞察とサポートによる恩恵を受けている。
4. コーチはクライアントの微妙なコミュニケーションに高感度で波長を合わせられる。

キーポイント

1. コーチは、セッション中、クライアントの内部、あるいはコーチとクライアントの間に発生する力のバランスに注意を払っており、そのバランスがクライアントとコーチングに与える影響を理解している。
2. コーチは、クライアントの全レベルにおけるコミュニケーションを、同時進行かつ全体的に把握している。
3. コーチは、クライアントが過去、現在、未来のどこからコミュニケートしているか識別することができる。
4. コーチは、クライアントが コーチの質問やコメントを明確に整理する機会を与えている。
5. コーチは、クライアントが自身の考えや応答を整理する機会を許可する。

相違点

- 認識に基づいた反応　対 条件付けられた反応今、この瞬間対
- 過去あるいは未来
- 「波長を合わせる」 対「敏感になる」

効果的な行動の例コーチ:

1. セッション中、あるいはコーチとクライアントの間に起きる出来事を学習と気づきの機会として用いている。
2. クライアントの役に立つ場合は、コーチの気づき、理解、感情を伝えている。
3. クライアントの視点を尊重する余地を保っている。

© 2007 International Association of Coaching ®

4. 主題とパターンに気付きながらも、つながりを保っている。
5. 様々なレベルにおける質問や観察を適宜、投げかけている。
6. 認識をより深める可能性を求め、クライアントとコーチ双方に有効な沈黙の時間を提供している。
7. 思考、感覚、直感について、クライアントと確認している。
8. クライアントにとって適切な場合は、クライアントの体感覚を確認している。
9. 知覚のあらゆるレベルでクライアントの認識を拡大している。
10. 気軽に直感と理論を伝えている。
11. 「内在する知」を探求する可能性を示し、知識の源であり判断基準としての体の使い方をクライアントに提案している。
12. クライアントの焦点を元に戻すため、必要であれば話を中断する。(例: クライアントが話に熱中していたり、無関係のことを話している時。)

非効果的な行動の例コーチは:

1. クライアントがコーチングを必要としているレベルで、クライアントと関わろうとしていない。
2. 明らかに関連性がない、逆効果なものを伝えている。
3. コーチの独自の見方、主張を押しつけている。
4. セッション中にクライアントが非生産的な行動を起こしてもそれを認識せず、対応もしない。
5. セッション中に生じた思考、行動、あるいは表現の主要パターンに対応しない。
6. コーチ自身の行動が、コーチングやクライアントにどう影響しているかに気付いていない。

マスタリー修得の指標

1. コーチは適宜、クライアントの表現を様々なレベルで認識し、反映している。
2. コーチはコーチングの過程を楽しみ、軽快さを保っている。
3. コーチとクライアントがセッション中に生じる効果的な沈黙の瞬間を受け入れている。
4. コーチはクライアントの問題やニーズを考慮している。
5. クライアントが思考、体、精神の異なるレベルにおいて独自の視点を決め、表現できるよう、コーチは適宜、クライアントをサポートしている。
6. コーチは、クライアントに強要しない範囲で、自分の視点を伝えている。
7. 適切ならば、クライアントの知覚レベル拡大のため、コーチはクライアントのモデルになっている。
8. コーチは、今この瞬間に何が起きているのか、クライアントが現実と取り組むのを助けている。
9. コーチは、コーチング関係とセッションそのものを、コーチングの道具として効果的に用いている。

コーチによくある間違い:

- クライアントの躊躇、熱意、無関心等を黙殺する、または気づいていない。
- クライアントがコーチングをどう体験しているかに注意を払っていない。

© 2007 International Association of Coaching ®

- クライアントの感情を対処することを恐れている。
- 論点を整理したり、焦点を定め直すことをしないまま、クライアントがダラダラとしゃべったり、話題を次から次へと変更することを許している。
- 将来の目標や行動にのみ焦点を合わせ、「今、この瞬間」を無視している。
- 何気ないコメントの中にクライアントが示した糸口を見落としている。
- １回のセッション中に、あるいは数回のセッションを通じて、何度もクライアントが取り上げていることに気づいていない。
- 自分の非効果的な行為に気づいていない。(割り込みや口癖等)

マスタリーを修得したコーチの特徴:

- このマスタリーは、クライアントを躊躇させているものや助けているものの本質にコーチとクライアントを迫らせるものであり、それ故に非常に深い転換点となるものであるということをコーチが理解している。
- クライアントの感情について、コーチは、それをクライアントの努力や目標との整合性を示すもの、あるいは情報源として、容易に対処することができる。
- コーチは、過去を語るクライアントに対し、その現在における意味をクライアントが見出し、その意味をどう利用するかを理解するためのサポートする。
- コーチングの関係が、しばしば、クライアントの人生の他の部分を映し出す鏡であることを理解していて、コーチングの道具としてこれを用いる。
- クライアントが避けたり、抵抗したり、そらしたりするときは、クライアントに何かが起きている、またはコーチとクライアントの間に何かが起きているのことを表しているということを認識している。
- 今、この瞬間に、クライアントが必要としている支援を行なうべく、コーチは自分のコーチングスタイル、エネルギー、またはコミュニケーションを順応させる。
- コーチは、コーチングの内容または方向性について、クライアントに「確認」する機会を与えている。
- コーチが、コーチングプロセスを信頼している。

#5. 表現　定義

コーチがいかにコミットメント、指示、意図そしてアイディアをコミュニケートするかを把握すること、またそのコミュニケーションの効果度。

効果

1. クライアントの安心と信頼がコーチング関係を良好にしている。
2. クライアントはコーチからのどのようなコミュニケーションに対しても率直に理解し、質問を投げかけることができる。

キーポイント

1. 尊敬
2. 注意
3. クライアントに焦点

© 2007 International Association of Coaching ®

4. 明快
5. 妥当性

相違点

- クライアントのためのコミュニケーション 対 クライアントに対するコミュニケーション コミュニケーション
- ョンの手段 対 コミュニケーションの実体
- (コーチがサポートと励ましを伝える様々な手段 対 言葉だけの表現)

効果的な行動の例コーチは:

1. クライアントに焦点を合わせ、注意を向け続けている。
2. クライアント毎に違ったコミュニケーションを通してラポールを構築し、それを維持している。
3. 言語あるいは非言語によるスキルを効果的に用いている。
4. クライアントのために、慎重、明確、簡潔に話している。
5. クライアントの気分や状況に敏感ながらも、直接的に話している。
6. クライアントの意見、自己開示、感情表現を促している。
7. 効果的なペースとエネルギーを使っている。
8. 書面、口頭によるコミュニケーションの取り方において模範を示している。

非効果的な行動の例コーチは:

1. 自己中心的である。(無理している。クライアントではなく自分に意識が向っている。十分に集中していない。不適当に中断する)。
2. セッションが出しているエネルギーと相反したペースを用いている。(例、せかせる、または遅らせる)。
3. 論点の説明が効果的でない。(例、言葉数が多すぎる。クライアントが用語、例え、比喩を理解していない。ポイントが適切でない。)
4. クライアントの言葉や声の調子に沿わない、あるいは対立するコミュニケーションを行なっている。
5. 不適当な話し方をしている。(クライアントの思考プロセスや表現を中断、あるいは妨げるような話し方)。
6. 笑いやユーモアを不適切、あるいは非効果的に用いている。

© 2007 International Association of Coaching ®

マスタリー修得の指標

1. コーチとクライアントの会話が自由に流れ、広がりがある。
2. コーチのコミュニケーションがより開かれた会話と前向きな結果をもたらしている。

コーチによくある間違い:

- 言葉による相槌が過度に多く、会話の障害になっている。
- クライアントの熱意のレベルとかみ合っていない(高すぎる、または低すぎる)。クライアントとの歯車が噛み合っていない。
- 論点を説明するために取りとめもなくしゃべり続けている。
- クライアントが同意するか屈服するまで、自分の論点を繰り返している。
- 「正しい」ことを行う、または言うことに焦点を合わせている。
- 善意からであれ、話を最後まで聞かず、あまりに多くの質問を投げかけている。

マスタリーを修得したコーチの特徴:

- クライアントが黙った場合でもあえて話そうとはせず、沈黙を苦痛と感じない。
- 自分の関わりがクライアントを前進させているか、進歩を妨害しているかを認識している。
- よい印象を与えるかどうかを気にしていない。
- クライアントに恩恵を与える中断の仕方とタイミングをわきまえている。
- 自己認識を働かせ、会話には目的がある。沈黙を埋めたり、不安を隠すために話していない。
- クライアントのニーズに応じて適切な声のトーン、言葉、比喩、ストーリーを使い分けている。

© 2007 International Association of Coaching ®

#6.明確化　定義

混乱や不安を減らし、または取り除き、クライアントの理解と自信を促進させる。

効果

1. クライアントとコーチ はより直接的に前進する。
2. 可能性の増加。
3. 不安の減少。
4. 未知だったものが明らかになる。

キーポイント

1. クライアントの意志と限界を尊重しながら、最重要課題を認識する。
2. コーチによる評価・判断は皆無。特定の方向に導かない。
3. 重要な価値観とニーズを認識する。
4. 目的、ビジョン、使命の整合性の確立を助ける。
5. 進歩を妨げるものを特定する。

相違点

- 原因 対 兆候　単純対
- 複雑　識別 対 解決
-

効果的な行動の例コーチは:

1. 相違点を明らかにしている、あるいはそれについて話している。
2. 二者択一の質問をしている。
3. クライアントが既に知っているもの、あるいは経験があるものと関連付けている。
4. パターンを認識している。
5. 自由回答形式の質問をしている。
6. クライアントの理解を助けるような発言をしている。
7. ミラーリング（相手の動作の反復）や言いかえを用いている。
8. 感知したことを話している。

非効果的な行動の例コーチは:

1. 最も重要なものを見逃す、または無視している。
2. 思い込みをしている。
3. クライアントの無秩序や混乱に引き入れられたり注意散漫になっている。
4. 誘導質問をしている。
5. 二者択一形式の質問している。

© 2007 International Association of Coaching ®

6. 全く質問をしていない。
7. クライアントが明らかに避けている、あるいは最小にとどめているトピックに踏み込んでいない。
8. 問題の根本を探すことよりも、表面的な徴候の解明に努めている。

© 2007 International Association of Coaching ®

マスタリー修得の指標

1. クライアントの最重要課題が特定され、言明されている。
2. クライアントは自分が理解されていると実感している。
3. クライアントのエネルギーが増大している。
4. 以下のようにクライアントの状況に対する見方が変化しており、その結果、
   a. 焦点がよりはっきりとしている。
   b. 明快さが増し、不安や混乱が減少している。
   c. それまで認識されていなかった情報が明らかになっている。
   d.思考、行動、意味などに新しい可能性が生じている。
5. クライアントが自己認識を高め、あるいは新しい視点から自分自身を観察することができている。

コーチによくある間違い:

- クライアントのための正しい答え、最善策を知っていると錯覚している。
- 表面的なものに焦点を合わせている。クライアントがセッションに持ち込む最初の「問題」の表面下、あるいはそれによって隠されたところにこそ最も重要な問題があるかもしれないことを理解していない。
- クライアントに議題を決めさせず、または一緒に決めることをせず、自分で 議題を決めている。
- 最重要課題が十分に認識され、表明されているかどうかが明確になっていない。

マスタリーを修得したコーチの特徴:

- クライアントのための明確化の作業にプレッシャーを感じない。
- クライアントの視点が動いている。自分自身、才能、状況、信念、思い込み等、新たな気づきが生じている。
- 好奇心旺盛である。
- 協働の方法をクライアントと一緒に意欲的に模索している。
- クライアントと共に、思考、感覚、信念、言葉を明確化している。
- 報告された問題の背後に何が存在するのかを意欲的に質問している。

#7. 明確な意志の設定と持続

定義

クライアントが目指す目標に向けて集中力を持続させるようサポートする。

効果

1. クライアントは自分が有能だと感じている。
2. クライアントは自分が何を達成、あるいは変容させたいのかが明確になっている。
3. クライアントは可能性によって触発されている。
4. クライアントは目的意識を持って前身している。

キーポイント

© 2007 International Association of Coaching ®

1. クライアントの意志と目標を尋ねる。
2. 最も重要なものに留意する。
3. 進歩の方向性を明白にする。
4. プロセスと意志の定期的な見直し・修正・称賛を行なう。

相違点

- 変容 対 変化　進歩対
- 動き

効果的な行動の例コーチは:

1. クライアントが何を意図しているかを絶えず明確にしている。
2. クライアントにとって何が重要なのかを把握している。
3. クライアントの意図が明らかになるような質問をしている 。
4. クライアントを重要な論点に引き戻す。
5. クライアントの意図の言い換えを行なうことで価値を与えている。
6. クライアントの目標と優先事項を尊重しながら、その意図や思い込みに対し問いかけをしている。
7. クライアントが意思を明白にするために役立つ資源(モデル、ツール、本、 アセスメント等)を提供している。
8. クライアントのニーズや願望の変化を認識し、それについて尋ね、対応している。
9. クライアントの価値にコーチングのポイントと意図を整合させている。
10. クライアントの価値観や信念がいかにクライアントの意志を支えるかを理解している。

非効果的な行動の例コーチは:

1. すでに関連性の無くなった目標に向けてクライアントを進ませている。
2. 意思が明確でないまま前進している。
3. クライアントをコーチの課題あるいは方法論に従わせようとしたり、不適当な影響を与えている。
4. クライアントを勘ぐっている。
5. 表明された目標からクライアントが脱線してもそれに合わせている。

マスタリー修得の指標

1. クライアントは将来についてより活発になり、あるいは自信を持っている。
2. クライアントは現在についてより活発になり、あるいは自信を持っている。
3. クライアントはより多くの責任を請け負うことに同意している。
4. クライアントは精神的な障害を取除く「気づき」を体験している。
5. クライアントは新しい方向、新たな責任、技術または計画に焦点を合わせ、活発化している。

コーチによくある間違い:

© 2007 International Association of Coaching ®

- クライアントがある意志や合意に躊躇していることに気づいていない。
- クライアントにとって何がベストかを知っていると錯覚している。
- クライアントまたはセッションにコーチ自身の期待を注入したり押し付けている。

マスタリーを修得したコーチの特徴:

- クライアントが具体的あるいは特定の意図を設定することに干渉しない。
- このマスタリーがマスタリー6（明確化）の上に成り立っていることを理解している。明確化がなされていないと意志の持続は不可能である。
- クライアントの焦点が本当の欲求や目標と結びついていない場合、それを認識できる。

© 2007 International Association of Coaching ®

#8.可能性の拡大

定義　アイディア、選択肢、機会が出現するような環境の創出。

効果

1. コーチは思考と行動の拡大を可能にする。
2. クライアントはより多くのことを自覚している。
3. コーチはクライアントが障壁を超越するよう援助する。
4. クライアントは意欲的に快適帯（コンフォートゾーン）を飛び出す。
5. クライアントの選択肢が増えている。

キーポイント

1. 信頼、開放性、好奇心、勇気、潜在性の自覚。
2. コーチとクライアントは 探索および発見を通したコミュニケーションをとる。
3. 「内的可能性」（例、個人的な偉大さ、より高い目的）および「外的可能性」（例、資源、ミーム（情報伝達の単位））を認識する。
4. 可能性はコーチ、クライアントおよび二人の協働によって発生する。

相違点

- 初心 対 専門性の押し付け　創造
- 的 対 規範的　拡大 対決定
-

効果的な行動の例コーチは:

1. 的確なツールとテクニックを使用して可能性を呼び込み、拡大のための環境作りを行なっている。
2. クライアントの選択肢を拡大するために様々なシナリオ、環境や文化を駆使している。
3. 発見のプロセスを増進させるための質問を用意している。
4. 思い込みの効果を最小限に止めている。
5. 行動と進歩の方向性が確立した時点でクライアントとのブレインストーミングを行っている。
6. クライアントがより大きな視点で可能性を捉えられるよう援助している。
7. クライアントを拡大させる必要性があるときは挑発的である。
8. たとえクライアントが躊躇しても、可能性をあきらめない。
9. 未知のものが自ら姿を表すことを期待している。
10. 最も野心的な選択肢を模索するようクライアントを励ましている。

非効果的な行動の例コーチは:

1. 特定のフレームワークやプロセスに執着している。

© 2007 International Association of Coaching ®

2. 特定の結果や答えを求めている。
3. 問題解決を急いでいる。
4. クライアントが思い込んでいる限界を受け入れている。
5. 誘導質問をしている。または 質問が多すぎる。
6. クライアントの「物語」が可能性の模索を制限してしまうことを許している。

© 2007 International Association of Coaching ®

マスタリー修得の指標

1. 会話が新鮮で未体験のゾーンに入っている。
2. クライアントが自ら驚くような発見をしている。
3. クライアントが受容的で、拡大、援助、他のアイディアの可能性を認識している。
4. コーチが新たな可能性を提示している。
5. クライアントが新たな可能性を提示している。
6. クライアントは新たな可能性、あるいはそのプロセスを受け入れることに対して、誠実な熱意を示している。

コーチによくある間違い:

- クライアントの思考過程を手助けせず、すべてのアイディアや可能性を自分で指摘する。
- すべてのアイディアが行動に移されなければならないと考えている。
- 事態を理解するため一生懸命になりすぎている。
- 好奇心を持って接するのではなく、ある特定の答えを探している。

マスタリーを修得したコーチの特徴:

- アイデアがアイデアを生んでゆくということを認識している。
- このマスタリーは、セッション中にその一部として自然に起こるものあり、コーチがセッション中にこのマスタリーを強制することはない。
- コーチはクライアントがこれまでに考えたことを越えたところで思考し、可能性を拡大するのを助ける。

#9.支援システム・構造の構築と活用

定義

クライアントが進歩し、それを維持するのために必要な、関係、ツール、システム、構造を把握し、構築するよう助ける。

効果

クライアントは必要な資源が入手可能、あるいはそれを作り出すことができると知ることで、前進することに自信と安心を感じている。

キーポイント

1. コーチはクライアントのニーズにとって適切かつ実現可能な支援システムと構造を提案している。
2. コーチは、クライアントが現在持ってはいるものの、効果的に活用されていない支援システム・構造をクライアントに特定させている。
3. コーチは、クライアントが支援と構造の必要性を感じている分野を把握するのを助けている。
4. クライアントは適切な支援システムの価値を理解している。
5. 目標あるいは意志に向けてクライアントがより持続的に進歩を続けている。

© 2007 International Association of Coaching ®

相違点

- 支援的な構造 対 プロセスの抑圧　補足
- 対 重複　促進 対 圧倒
-

効果的な行動の例コーチは:

1. 関連性のある資源（リソース）や情報を提案している。
2. 必要なシステムの特定を助け、クライアントの調査や査定、そしてシステム・構造の実施の可能性についてフィードバックを引き出している。
3. 支援的で補足的なシステムと構造の提案に敏感である。
4. システムと構造を通した能力拡大の方法を積極的に見出そうとしている。
5. システムと構造が持続可能なものかどうかをクライアントが判断することを助ける。
6. リソース、システム、構造に対するクライアントの反応に介入しない。
7. 持続性を確保するためにクライアントの価値観やアイデンティティを引き出し、活用している。
8. クライアントの価値観と文化を、コーチングポイントに整合させている。

非効果的な行動の例コーチは:

1. クライアントのニーズをまず特定することなく、資源（リソース）、構造、あるいはシステムを提案している。
2. 財政、文化、組織、性格、教育上の理由などからクライアントにとって不適格かもしれないリソースを提案している。
3. コーチ自身の好みで構造やシステムを強要しようとしている。
4. 可能な支援システムや構造としてあげられたクライアントの提案を打ち消している。
5. クライアントにとって適切である支援システムや構造を提案・奨励していない。
6. 特定された支援システムと構造を活用するにあたって、クライアントを積極的に助けていない。
7. 支援システムおよび構造の持続可能性を質していない。
8. 支援構造として活用されているのが、コーチと進歩について確認するというような「コーチに対する責任」だけとなっている。
9. システムと構造を作成しないで、クライアントに行動計画を課している。

マスタリー修得の指標

1. コーチは、クライアントが支援システムと構造を作る作業を助ける上で創造的であり、クライアントが採択するアイデアが何であれ、介入しない。
2. クライアントはこれまでに明確にされていなかった資源を自覚している。
3. クライアントは既存の資源の活用あるいは新しい資源の創造を通して、システムと構造の価値に対する評価あるいは理解を表している。
4. クライアントは、資源の活用・発見・創造の責任を受け入れている。
5. クライアントは、この新たな見解あるいは責任感に勇気づけられていることを認識している。

© 2007 International Association of Coaching ®

6. コーチは支援システムと構造の持続性を質している質している。
7. コーチは行動計画と支援システムを区別できている。

コーチによくある間違い:

- 「やることリスト」だけに注目している。
- 支援構造として、説明責任だけに依存しすぎている。
- クライアントを含めず、行動やシステムの全部あるいはほとんどをを自分で特定している。
- コーチ自身のシステムを押し付けている。
- 既に明らかな支援構造のみを提示している。(配偶者、コーチ、職務明細、組織における現職の役割等)
- クライアントの文化を考慮に入れず、その文化においては不適切な行動を勧めている。
- 組織内でコーチングが行われている場合、その組織の文化を考慮に入れず、その文化においては不適切な行動を勧めている。
- クライアントの根本問題を中心に据えたシステムや構造作りができていない。
- セッション中に見られる制限的な信念あるいは障害物が、クライアントがシステムと構造を活用するにあたってどのような悪影響を及ぼすかが質せていない。

マスタリーを修得したコーチの特徴:

- コーチはシステムと行動計画の違いを知っている。
- コーチは、構造やシステムの種類について、物理的、感情的、心構え等、多数の可能性に対応している。
- クライアントは、システムと構造の有効性と持続性を確かなものとするために何を行うべきかを理解している。
- このことを確実かつ継続的に実行することによって問題が処理され、繰り返されないようにするためには何が必要かについてコーチとクライアントが話し合っている。 コーチは、クライアントの構造とクライアントの価値観やアイデンティティーとが整合性を保つようにしている。 持続性を妨害する可能性がある内面の葛藤にコーチとクライアントが対応している。
- 職場や組織内にある資源やサポートシステムをクライアントが認識できるよう、コーチが助けている。
- 組織内の現状、期待、制限などについてコーチは尋ねたり質したりしている。

© 2007 International Association of Coaching ®

IAC 倫理原則

適性

コーチは、自身の仕事において高い適性の基準を維持します。

誠実さ

コーチは、自身を誠実かつ公正に表現し、特定の能力と限界を認識しています。

コーチは、自身の信念体系、価値観、ニーズ、および限界、そしてこれらが仕事に与える影響を認識しようと努めます。可能な限り、関係する当事者に対して、自分たちの役割を明確にし、それに従って適切に機能しようとします。

非差別

IAC は、すべてのプログラムと活動において、人種、肌の色、国籍、性別、宗教、年齢、障害、政治的信念、性的指向、結婚または家族の状態に基づく差別を禁止しています。

IAC によれば、差別は、人々が他の人またはグループよりも不利な扱いを受けるか、または IAC の活動に自由かつ完全に参加する機会を与えられない場合に発生します。これは、人種、肌の色、国籍、性別、婚姻状態、障害、宗教、政治的信念、性的嗜好、またはその他の中心的な特徴に基づく場合です。

職業上の責任

コーチは、自身だけでなく、広範な職業に対してもよく反映される倫理的行動基準を維持します。

人権と尊厳の尊重

コーチは、文化的な違いやクライアントの自律権、プライバシー、機密保持権を認識しつつ、尊厳と敬意をもってクライアントに接します。

コーチは、すべての人々の基本的な権利、尊厳、価値を適切に尊重します。彼らは、個人のプライバシー、機密保持、自己決定権、自律権を尊重し、これらの権利の行使が法的および他の義務と一致せざるを得ない場合でも、これに矛盾することなく行動します。コーチは、年齢、性別、人種、民族、国籍、宗教、性的指向、障害、言語、経済的地位による文化的、個人的、役割の違いについて認識しています。

コーチは、これらの要因に基づく偏見の影響を仕事から排除しようとし、公正で差別的でない慣習に故意に参加したり支持したりしません。

IAC 倫理規定

はじめに

コーチは、クライアントを支援するために個人／ライフおよび法人／ビジネスなどのさまざまな専門分野で活動しています。コーチは、学校または指導コーチを通じてコーチングのトレーニングを受け、個人の人生経験を実践に取り入れています。

© 2007 International Association of Coaching ®

コーチは、コーチからコンサルタント、ファシリテータまでさまざまな肩書きを使用することができます。進捗状況は各コーチが異なる方法で測定しますが、達成度は常にクライアントの進展によって測定されます。ほとんどのコーチング関係が個人的な性格を持つため、この倫理規定は、プロのコーチが実践を基に置く枠組みと価値観を提供します。

この規定の目的は 3 つあります。第一に、コーチが賛同する広範な原則と価値観を提供します。これには機密保持およびクライアントの幸福と成功への最大の配慮が含まれます。第二に、コーチが多くの具体的な状況で使用する規則を提供します。最後に、この規定はコーチの倫理的および道徳的基準の基礎として機能することを意図しています。各個々のコーチはこの規定に従うことに同意しますが、それに補足や追加をすることを奨励され、倫理的な職場と職業を築くための終身のコミットメントを構築するために取り組まれることが期待されています。

一般的な基準

1.01 倫理規定の適用範囲

(a) 任意の規範は経験を規則のセットに正常化するとみなされます。規範は、そのコミュニティのメンバーが、これらの規則への遵守がコミュニティ内外のすべての人々にとって有益であると受け入れるため、コミュニティによって採用されます。

(b) この倫理規定は、IAC のすべてのプロフェッショナルメンバーに向けられています。基本的には、会員が守るべき最低限の実践基準を示した一連の声明で構成されています。この倫理規定は、文字通りではなく、精神で守られることを意図しています。

(c) 倫理規定の対象となるコーチの活動は、彼らのコーチング関連の職務の一部である場合にのみ、これらの倫理基準の下で審査されることができます。

1.02 倫理規定と国の法律の関係

(a) コーチが活動する国の法律は、IAC の倫理基準よりも優先されますが、少なくとも、コーチは IAC の倫理規定を遵守しようと努めます。

(b) コーチは、著作権、知的所有権、特許侵害を含む違法な活動には関与すべきではありません。

1.03 プロフェッショナル関係

© 2007 International Association of Coaching ®

(a) コーチは、IAC の専門基準の文脈内でのみサービスを提供します。

(b) 信頼と責任はコーチング職業の核心です。コーチは常にクライアント、同僚、そして自分自身に対して誠実に行動することが期待されています。

1.04 コーチングの能力

(a) コーチは、教育、トレーニング、または適切な専門的な経験に基づいて、自身の能力の範囲内でサービスを提供します。コーチは、自分が適切に実施できると信じる仕事のみを受け入れるべきです。

1.05 専門知識の維持

(a) コーチは、自身の活動分野での最新のベストプラクティスと専門情報についての適切な意識レベルを維持し、使用するスキルの能力を維持するための継続的な努力を行います。

(b) コーチは、コーチング職業に関連する新しい技術、実践、法的要件、および標準について自身を情報提供し続けます。

1.06 コーチングサービスの成果

(a) コーチは、個人、グループ、または組織に対してコーチングサービス（それに含まれるアセスメントを含む）を提供する際、受信者にとって理解しやすい言語を使用します。

(b) もし法律またはその他の手段によって特定の個人やグループに対してそのような情報の提供が妨げられる場合、コーチはサービスの最初にそのような個人やグループに通知します。

1.07 他者を尊重する

(a) 個人の尊重はコーチング関係の基盤です。

(b) コーチは、自身の業務関連活動において、他者が自身と異なる価値観、態度、意見を持つ権利を尊重します。

1.08 公正な差別の禁止

© 2007 International Association of Coaching ®

コーチは、業務関連活動において、いかなる根拠に基づく不当な差別も行いません。

1.09 ハラスメント

(a) コーチは、自身が業務で関わる人々に対して嫌がらせや侮辱的な行為を故意に行いません。

(b) セクシャルハラスメントは、性的な性質を持つ性的な求愛、身体的なアプローチ、または口頭または非言語の性的な行為を指します。コーチは、自身の行動が常に適切であり、いかなる形であってもハラスメントと形容されないように常に配慮します。

1.10 個人的な問題と紛争

(a) コーチは、コーチクライアント関係に不利益を及ぼす可能性のある個人的な問題を経験することがあることを認識します。したがって、コーチはそのような問題をクライアントに通知し、適切な対応が取られます。

(b) さらに、コーチは、コーチングパフォーマンスに支障をきたさないように、個人的な問題の兆候を見逃さず、早い段階で支援を受ける義務があります。

(c) コーチは、自身のコーチング関連の職務に支障をきたす可能性のある個人的な問題に気付いた場合、適切な措置を講じます。これには、専門的な相談や支援の取得、現在のコーチング活動を制限、一時停止、または終了すべきかどうかの判断が含まれます。

1.11 進捗状況の確認

コーチは、クライアントが進展するよう合理的な措置を講じ、進展がない場合にはクライアントへの害を最小限に抑えるよう努めます。

1.12 コーチの影響の誤用

コーチの専門的判断と行動は他人の生活に影響を及ぼす可能性があるため、彼らは自身の影響が誤用される可能性のある個人的、財政的、社会的、組織的、政治的要因に警戒し、それを防ぎます。

1.13 コーチの業務の誤用

© 2007 International Association of Coaching ®

(a) コーチは、他人によって自身のスキルや評価が誤用される可能性のある活動には参加しません。

(b) コーチが自身の業務の誤用または誤表示を知った場合、適切な手段を講じて誤用または誤表示を訂正または最小限に抑えます。

1.14 利益相反

(a) できるだけ、既存の関係が利益相反のリスクを引き起こす可能性がある場合、コーチは専門的な義務を果たすことを避けます。

(b) コーチが予期せぬ要因によって利益相反の関係が生じた場合、関係が影響を受ける人々の最善の利益と倫理規定の遵守を考慮して、問題を解決しようと努めます。

1.15 バーター

コーチは、関係が搾取的でない限り、バーターに参加することができます。コーチは、法的および所得税の制限内で、コーチングサービスと引き換えに商品、サービス、またはその他の非金銭的報酬を受け入れることを交渉する自由があります。

1.16 搾取的関係

(a) コーチは、自身が管理的役割を持つ可能性のある人々を搾取しません。

(b) コーチは、自身が評価権限または直接的な権限を持つ人々と性的な関係を持ちません。このような関係は搾取的と見なされる可能性があるためです。

1.17 紹介

適切であり、職業的に適切な場合、コーチは他の専門家と協力してクライアントに効果的かつ適切なサービスを提供するために協力することができます。

1.18 第三者からのサービスの依頼

(a) コーチが第三者の要請に応じて個人または団体にサービスを提供することに同意する場合、コーチは、サービスの開始時点で、関係の性質、コーチの役割（組織コンサルタントなど）、提供されるサービスまたは取得される情報の確実な用途、および機密保持の制限がある可能性を、できるだけ明確に説明します。

(b) 第三者の関与によってコーチが対立する役割を果たす可能性がある場合、コーチは自身の責任の性質と方向を明確にし、状況の発展に応じてすべての関係者を適切に通知し、この倫理規定に従って状況を解決します。

1.19 下位職員への委任と監督

(a) コーチは、自身の従業員および助手に、その人々が独立してまたは提供される監督のレベルを提供しながら、合理的に期待される範囲内で、自身が合理的に期待される範囲内で能力を持って遂行できる責任のみを委任します。

(b) コーチは、自身の従業員に適切なトレーニングと監督を提供し、そのような人々が責任を持って、適切かつ倫理的にサービスを提供するように努めます。

1.20 レコードと情報の管理

© 2007 International Association of Coaching ®

(a) コーチは、自身の実践および他の業務に関連するレコードおよびデータを、自身の実践が行われる国の法律に従って、およびこの倫理規定の要求を満たす方法で作成、維持、普及、保管、保持、および廃棄します。

(b) コーチは、自身の作業を適切に文書化することをお勧めします。これにより、後でコーチまたは他の専門家によってサービスを提供しやすくなり、説明責任を確保し、自身の国の法的要件を満たすことができます。

1.21 料金および金融取引

(a) プロの関係の早い段階で、コーチとクライアント、またはコーチングサービスの適切な受益者は、報酬と請求の取決めを明確に定める合意に達します。

(b) コーチは、サービスまたは支払いに関してサービスの受益者または支払い者を搾取せず、また自身の料金を誤って表示しません。

(c) 資金調達の制約によってサービスの制限が予測できる場合、できるだけ早い段階でクライアントまたは他の適切なサービス受益者と話し合います。

(d) クライアントまたはサービスの受益者が合意通りに支払いを行わない場合、コーチは料金を徴収するために債権回収機関または法的手段を使用する意向がある場合、まずその事実を当該人物に通知し、迅速な支払いの機会を提供します。

1.22 請求書への正確さ

サービスの請求書において、コーチは提供されるサービスの性質と料金、および/またはその他のすべての料金を正確かつ明確に記述します。

1.23 紹介手数料

コーチが雇用主と従業員の関係以外の他の専門家に支払いを行ったり、受け取ったり、または料金を分割する場合、その支払いは提供されるサービス（紹介、相談、管理、その他）に基づいており、関与が開始される前に書面で合意されます。

広告/公開声明

2.01 定義

広告/公開声明とは、コーチが公に利用可能にする任意の文書または口頭での声明（パンフレット、記事、スピーチ、職務経歴書など）を指します。これらはコーチングに関連します。

2.02 他者の声明

コーチは、他の人が自身のために公的な声明を出す可能性があることを理解しています。これが明示的に求められているかどうかに関係なく、コーチはそのような公的な声明が真実であり、誤解を招かないように最善の努力をします。

2.03 虚偽の声明の回避

コーチは、いかなる状況下でも虚偽の公的な声明を出さないことに同意します。このような声明の例には、コーチのトレーニングや経験、および料金が含まれます。

コーチング関係

© 2007 International Association of Coaching ®

3.01 関係の構築

(a) コーチは、クライアントと最初の有料コーチングセッションの前に、料金体系を説明します。

(b) コーチは、コーチング関係の早い段階で、重要なトピックをできるだけ早く持ち出して議論します。その一例が機密性です（また、機密性の限界については標準 4.01、機密性の限界の議論も参照）。

(c) コーチは、関連する場合、クライアントを他の専門家に紹介します。また、クライアントが精神的健康治療が必要かもしれない問題を見つけた場合、できるだけ早くカウンセラー、セラピスト、または精神科医に紹介します。

(d) コーチは、クライアントの質問に迅速に回答し、コーチングに関する懸念をできるだけ早く対処します。利用可能な場合、コーチは具体的な懸念に対処するための書面情報を提供します。

3.02 安全性と幸福

(a) 各コーチは、クライアントが自身の安全性や幸福、または他人の安全性や幸福を危険にさらす可能性のある状況を認識した時点で、適切な精神保健専門家または緊急サービス専門家に適切な紹介を行う必要があります。深刻な状況では、コーチはクライアントの代理として精神保健危機対応サービスまたは緊急サービスに連絡しなければなりません。

(b) コーチは、クライアントが自身または他人の安全性を危険にさらす可能性のある精神的健康の問題や特定の問題を診断または評価しようとしてはいけません。なぜなら、コーチはそのような診断や評価を行うために訓練を受けていないし、ライセンスを持っていないからです。コーチは、自身の経験に基づいて行動しなければなりません。

(c) コーチは、クライアントが自身または他人を害したり危害を及ぼしたりすると告白した場合、適切な機関に通報しなければならず、害を受けたり危害を受けたりしている人々にも通知を試みなければなりません。コーチは、現在のまたは予測される害が実際に違法であるかまたは合法であるかを判断する必要はありません。

3.03 精神保健専門家のサービスを受けているクライアントへのコーチングサービスの提供

各コーチは、現在精神療法や他の精神的健康治療を受けているクライアントとのコーチング関係に参入するかどうかを決定しなければなりません。この決定をする際に最も重要なのは、クライアントの幸福です。

3.04 クライアントとの性的関係

コーチは、現在のクライアントと性的関係にはならないことに同意します。

3.05 サービスの中断

コーチは、コーチングサービスの中断については他の手段を講じる合理的な努力をします。長期の中断（1 か月以上）の場合、コーチはクライアントを他のコーチに紹介するよう奨励されます。それまでの間、クライアントが再開できるまでの期間についてクライアントに説明します。

3.06 コーチング関係の終了

コーチは、クライアントがコーチング関係から利益を得ていない（または害を受けている）ことが明らかになった場合、コーチング関係を終了することに同意します。関係を終了する際、コーチは適切な場合、代替案を提案したり、他のコーチや専門的なサービスへの紹介を提供します。

© 2007 International Association of Coaching ®

プライバシーと機密性

これらの基準は、すべてのコーチの専門活動に適用されます。

4.01 機密性とその制限についての議論

(a) コーチは、クライアントのプライバシー権を尊重します。クライアントからの個人情報を収集することは、サービスの提供や研究の実施に不可欠でない限り、行いません。情報開示が行われた時点から機密性の基準が適用されます。

(b) 機密性についての議論は、専門的な関係の開始時に行われます（それが禁忌でない場合または実行不可能でない場合）し、必要に応じて継続的に行われます。

(c) コーチは、クライアントおよび他の関係者と機密性の性質とその制限について議論します。コーチは、機密情報が要求されるか開示される可能性のある状況を検討します。

(d) 専門サービスの提供の過程で得られた情報は、特定のプロフェッショナルの理由がある場合を除き、すべて機密情報です。コーチは、クライアントまたは他人に予測される直接の危害を防ぐためにその開示が必要である場合、特定のリリースなしに機密情報を開示します。どの状況でも、コーチは開示される情報の量を慎重に考慮します。

4.02 機密性の維持

(a) コーチは、自身が働くまたは相談を受ける相手の機密性の権利を適切に保護します。コーチは、専門的な関係、機関の規則、または法律が機密性を確立している場合を認識します。

(b) コーチは、プライバシーが保証される場所以外で機密情報を議論しません。

(c) コーチは、機密情報を適切な専門的、協力的、または科学的な目的でかつそれに関心を持つ明らかな人々とのみ議論します。

© 2007 International Association of Coaching ®

IAC Coaching Masteries™ ノートシート

コーチ: _____クライアント: _____日にち: _____合計点: _____

スコア:	#1. 信頼関係の構築と維持		
定義 個人的な成長、気付き、変容を促す安全な場と協力的な関係の確保。	効果 1. クライアントが、気軽に意見交換ができる。 2. クライアントが、コーチを自分の理解者であると認識している。 3. クライアントが、自分が無理なく変容、成長できると実感する。 4. クライアントが、コーチングの結果と責任について、現実的に理解している。	キーポイント 1. 相互的な尊敬と受容 2. 自信と安心 3. クライアントが、コーチから評価や判断を下されることなく、安心して自分の不安を語ることができる感じている。	相違点 • 協力的 対 共同的 • 受容と支援 対 寛容 • 自信 対 尊大

© 2007 International Association of Coaching ®

効果的な行動の例コーチは:	非効果的な行動の例コーチが:	マスタリーを修得したコーチの特徴
1. 能動的に傾聴している。 2. 自分自身の人間的限界を認めた慎みのある態度をとっている。 3. 恐れや疑いの徴候に敏感である。 4. 変化に対する不安、疑い、恐れが対処可能であることをクライアントに納得させている。 5. 隠れた希望や夢が明らかになってくるような質問をしている。 6. 徹底的で挑戦的な質問を投げかけている。クライアントはそれに率直に反応している。 7. よりよい質問やコーチングの新しい方向性についてクライアントからの提案を歓迎している。 8. 言葉と行動に誠実である。 9. 信頼が欠如したり、妨げられている部分を観察し、率直に話し合っている。	1. 誘導質問や限定質問のような非効果的な質問を投げかけている 。 2. クライアントから提案を求めていない。 3. クライアントに制限を加えている。意欲的な選択を促していない。 4. 「見栄え」を良くしようと試み、好かれようとしている。 5. 意見を押し付けている。 6. 評価・判断をあからさまにしたり、あるいはそれを示唆している。	1. クライアントが自主的に心配や不安を話している。 2. クライアントが挑戦的な質問や洞察に前向きに反応している。 3. コーチングの文脈の中で、クライアントが大胆な野心や夢を語っている。 4. 必要に応じて、コーチは自分の限界を認めている。 5. クライアントが感情を自由に表現している。 6. クライアントがコーチを受け入れている。

注釈:	注釈:	注釈:

© 2007 International Association of Coaching ®

スコア:

#2.潜在能力の探索、肯定、拡大

定義

クライアントの強みと可能性を認識し、またそれをクライアント自身が認め、正しく自己評価できるようサポートする。

効果

1. クライアントが自分の能力と可能性に対する自己評価を高めている。
2. クライアントがこれまでより自発的に現在の枠組みや戦略を超えた行動を取ろうとする。

キーポイント

1. クライアントへの共感
2. より広い範囲の可能性の認識
3. クライアントに対する激励と自信の強化
4. 制限的な思い込みへの挑戦
5. クライアントの強みを認識し、クライアント個人の目標及び組織の目標（企業環境にある場合）にその強みがどのように貢献するかを理解している。

相違点

- 「信じる」 対 「断定する」
- 「可能にする」 対 「強制する」
- 「拡大する」 対 「引き延ばす」

効果的な行動の例コーチは:

1. 誠実な励ましを与えている。
2. クライアントの潜在能力に対する信頼を表している 。
3. クライアントの成功に、責任を持って関っている。
4. クライアントの態度や行動について前向きで具体的なフィードバックを与えている。
5. クライアントの能力、強み、才能、知識、経験を再認識させている。
6. クライアントの最大限の可能性を呼び覚ましている。
7. 後世への足跡を残そうというクライアントの欲求を引き出している。（それがふさわしい場合）
8. クライアントの潜在能力をクライアントの組織内で考えられる機会や資源と結びつけている。

非効果的な行動の例コーチは:

1. 嚇したり、大げさな、あるいは形ばかりの熱意を示す。
2. クライアントが持っている思い込み、限界、障害に関心を示すのではなく、受け入れてしまっている。
3. クライアントの許容範囲を超えた挑戦をし、クライアントを落胆させている。
4. 支援を装いつつ、自分の主張を押しつけている。
5. クライアントを操っている。
6. クライアントを悪者にしている。
7. クライアントが依存してしまう環境を作ったり、それを助長している。
8. クライアントを文化的に不適切な行為に導いている 。
9. クライアントに対する信頼を示していない。

マスタリー修得の指標

1. クライアントはもはや躊躇しておらず、前進することに意欲的で、行動を計画し、それを語っている。
2. コーチはクライアントの以前の安全地帯を越えたところでの行動を促している。（それがふさわしい場合）。
3. クライアントの自信は強化され、自分の責任を受け入れている。
4. クライアントはやる気があり、宿題を完了している。
5. コーチはクライアントの最大限の可能性を呼び覚ましている。
6. クライアントは自分の潜在能力を認識している。
7. クライアントは自分が認められ、理解されていると実感している。
8. クライアントは自分を制限している行動、思考、信念を認識している。

© 2007 International Association of Coaching ®

注釈:	注釈:	注釈:

© 2007 International Association of Coaching ®

スコア:	**#3. 傾聴**		
定義 クライアントが発する言葉、ニュアンスおよび「言葉にならない言葉」に完全な注意を払う。 コーチはクライアントが言葉で表現できる範囲を超えた傾聴によって、クライアントの不安や問題の核心をより深く認識する。	効果 キーポイント 相違点 1. クライアントは、断じられるのではる」 対なく、理解され認められてじる。 2. コーチはクライアントが 2. クライアントは、リラックスし臨機応変に話ができる。 3. コーチはク敏感である。 「誘導する」	1. コーチは、クライアントの言語表現と非 □ いると感表現の両方に焦点が合っている。 言葉で表現できる範□「気づいている」 対 囲を超えて聴く。 「先回りする」 ライアントの発言（言葉）と行動 「引き出	言語 「 傾聴す 「聞く」 す」 対 や感情との食い違いに

効果的な行動の例コーチは:	非効果的 動の例 コーチは：	マスタ 一修得の指標クライアントの口調
1. 言葉を使わず、あるいはごくわずかな合図だけで、クライアントが考えをまとめ、反応する機会を与えることができる。 2. クライアントの発言や挙動の中の微妙なニュアンスを察知する。 3. クライアントに発言を再確認する機会を与え、クライアントとのコミュニケーションを確認している。 4. クライアントの発言（言葉）と行動や感情との食い違いを指摘することができる。 5. クライアントのニーズや関心に応じて、適切なコーチング法を使い分けている。	1. 話を不適切に中断したり、クライアントの頭越しに話をする。 2. 建設的な沈黙を活用していない。（クライアントが話し終わるとすぐに話し出す等） 3. クライアントのコミュニケーションの中にある深いポイントを見逃している。 4. 重要な何か無視している。 5. ニーズに合ったコーチング法を用いず、一般的で型通りのアプローチをしている。 6. 多次元でクライアントを傾聴せず、自分を主張することに集中している。	1. と思考の流れが、より開放的で自然になっている。 2. クライアントが思考や発見を吟味する時間が十分に与えられている。 3. コーチは、それがふさわしい場合、クライアントの無言のコミュニケーションを確認する。 4. クライアントの無言のコミュニケーションに対するコーチの観察をクライアントが確認している。 適切 5. な場面で、コーチはちょうど良い長さの沈黙を用いる。 6. コーチがクライアントを特定の方向に導いていない。

© 2007 International Association of Coaching ®

注釈:	注釈:	注釈:

スコア:	**#4.　「この瞬間」における観察と処理**		
定義 クライアントの思考、体、心、精神の各レベルにおいて情報を処理し、クライアントに完全な注意を払う。コーチは、各レベルにおけるこうした思考や問題をどう体験するかについて、適宜、クライアントの認識力を高める。コーチはセッション中に起きていること（クライアントの行動、パターン、感情、コーチとの関係、等）を反映することで、クライアントの自己認識を高め、前向きで的確な行動を促す。	効果 1. クライアントは、今自分に起きていることを自由に表現し、それに取り組むことができる。 2. クライアントは、過去や未来のこだわりや心配から解放されている 。 3. クライアントは、全てのレベルにおいてコーチングの洞察とサポートによる恩恵を受けている。 4. コーチはクライアントの微妙なコミュニケーションに高感度で波長を合わせられる。	キーポイント 1. コーチは、セッション中、クライアントの内部、あるいはコーチとクライアントの間に発生する力のバランスに注意を払っており、そのバランスがクライアントとコーチングに与える影響を理解している。 2. コーチは、クライアントの全レベルにおけるコミュニケーションを、同時進行かつ全体的に把握している。 3. コーチは、クライアントが過去、現在、未来のどこからコミュニケートしているか識別することができる。 4. コーチは、クライアントがコーチの質問やコメントを明確に整理する機会を与えている。 5. コーチは、クライアントが自身の考えや応答を整理する機会を許可する。	相違点 • 認識に基づいた反応 対 条件付けられた反応 • 今、この瞬間 対過去あるいは未来 • 「波長を合わせる」 対「敏感になる」

© 2007 International Association of Coaching ®

効果的な行動の例コーチ:	非効果的な行動の例コーチは:	マスタリー修得の指標
1. セッション中、あるいはコーチとクライアントの間に起きる出来事を学習と気づきの機会として用いている。 2. クライアントの役に立つ場合は、コーチの気づき、理解、感情を伝えている。 3. クライアントの視点を尊重する余地を保っている。 4. 主題とパターンに気付きながらも、つながりを保っている。 5. 様々なレベルにおける質問や観察を適宜、投げかけている。 6. 認識をより深める可能性を求め、クライアントとコーチ双方に有効な沈黙の時間を提供している。 7. 思考、感覚、直感について、クライアントと確認している。 8. クライアントにとって適切な場合は、クライアントの体感覚を確認している。 9. 知覚のあらゆるレベルでクライアントの認識を拡大している。 10. 気軽に直感と理論を伝えている。 11. 「内在する知」を探求する可能性を示し、知識の源であり判断基準としての体の使い方をクライアントに提案している。 12. クライアントの焦点を元に戻すため、必要であれば話を中断する。(例： クライアントが話に熱中していたり、無関係のことを話している時。)	1. クライアントがコーチングを必要としているレベルで、クライアントと関わろうとしていない。 2. 明らかに関連性がない、逆効果なものを伝えている。 3. コーチの独自の見方、主張を押しつけている。 4. セッション中にクライアントが非生産的な行動を起こしてもそれを認識せず、対応もしない。 5. セッション中に生じた思考、行動、あるいは表現の主要パターンに対応しない。 6. コーチ自身の行動が、コーチングやクライアントにどう影響しているかに気付いていない。	1. コーチは適宜、クライアントの表現を様々なレベルで認識し、反映している。 2. コーチはコーチングの過程を楽しみ、軽快さを保っている。 3. コーチとクライアントがセッション中に生じる効果的な沈黙の瞬間を受け入れている。 4. コーチはクライアントの問題やニーズを考慮している。 5. クライアントが思考、体、精神の異なるレベルにおいて独自の視点を決め、表現できるよう、コーチは適宜、クライアントをサポートしている。 6. コーチは、クライアントに強要しない範囲で、自分の視点を伝えている。 7. 適切ならば、クライアントの知覚レベル拡大のため、コーチはクライアントのモデルになっている。 8. コーチは、今この瞬間に何が起きているのか、クライアントが現実と取り組むのを助けている。 9. コーチは、コーチング関係とセッションそのものを、コーチングの道具として効果的に用いている。

© 2007 International Association of Coaching ®

注釈:	注釈:	注釈:

© 2007 International Association of Coaching ®

スコア:

#5. 表現

定義

コーチがいかにコミットメント、指示、意図そしてアイディアをコミュニケートするかを把握すること、またそのコミュニケーションの効果度。

効果

1. クライアントの安心と信頼がコーチング関係を良好にしている。
2. クライアントはコーチからのどのようなコミュニケーションに対しても率直に理解し、質問を投げかけることができる。

キーポイント

1. 尊敬
2. 注意
3. クライアントに焦点
4. 明快
5. 妥当性

相違点

- クライアントのためのコミュニケーション対クライアントに対するコミュニケーション
- コミュニケーションの手段 対 コミュニケーションの実体
- (コーチがサポートと励ましを伝える様々な手段 対 言葉だけの表現)

効果的な行動の例コーチは:

1. クライアントに焦点を合わせ、注意を向け続けている。
2. クライアント毎に違ったコミュニケーションを通してラポールを構築し、それを維持している。
3. 言語あるいは非言語によるスキルを効果的に用いている。
4. クライアントのために、慎重、明確、簡潔に話している。
5. クライアントの気分や状況に敏感ながらも、直接的に話している。
6. クライアントの意見、自己開示、感情表現を促している。
7. 効果的なペースとエネルギーを使っている。
8. 書面、口頭によるコミュニケーションの取り方において模範を示している。

非効果的な行動の例コーチは:

1. 自己中心的である。(無理している。クライアントではなく自分に意識が向っている。十分に集中していない。不適当に中断する)。
2. セッションが出しているエネルギーと相反したペースを用いている。(例、せかせる、 または遅らせる)。
3. 論点の説明が効果的でない。(例、言葉数が多すぎる。クライアントが用語、例え、比喩を理解していない。ポイントが適切でない。)
4. クライアントの言葉や声の調子に沿わない、あるいは対立するコミュニケーションを行なっている。
5. 不適当な話し方をしている。(クライアントの思考プロセスや表現を中断、あるいは妨げるような話し方)。
6. 笑いやユーモアを不適切、あるいは非効果的に用いている。

マスタリー修得の指標

1. コーチとクライアントの会話が自由に流れ、広がりがある。
2. コーチのコミュニケーションがより開かれた会話と前向きな結果をもたらしている。

© 2007 International Association of Coaching ®

注釈:	注釈:	注釈:

© 2007 International Association of Coaching ®

スコア:

#6.明確化

定義
混乱や不安を減らし、または取り除き、クライアントの理解と自信を促進させる。

効果
1. クライアントとコーチはより直接的に前進する。
2. 可能性の増加。
3. 不安の減少。
4. 未知だったものが明らかになる。

キーポイント
1. クライアントの意志と限界を尊重しながら、最重要課題を認識する。
2. コーチによる評価・判断は皆無。
   特定の方向に導かない。
3. 重要な価値観とニーズを認識する。
4. 目的、ビジョン、使命の整合性の確立を助ける。
5. 進歩を妨げるものを特定する。

相違点
- 原因 対 兆候
- 単純 対 複雑
- 識別 対 解決

効果的な行動の例コーチは:
1. 相違点を明らかにしている、あるいはそれについて話している。
2. 二者択一の質問をしている。
3. クライアントが既に知っているもの、あるいは経験があるものと関連付けている。
4. パターンを認識している。
5. 自由回答形式の質問をしている。
6. クライアントの理解を助けるような発言をしている。
7. ミラーリング（相手の動作の反復）や言いかえを用いている。
8. 感知したことを話している。

非効果的な行動の例コーチは:
1. 最も重要なものを見逃す、または無視している。
2. 思い込みをしている。
3. クライアントの無秩序や混乱に引き入れられたり注意散漫になっている。
4. 誘導質問をしている。
5. 二者択一形式の質問している。
6. 全く質問をしていない。
7. クライアントが明らかに避けている、あるいは最小にとどめているトピックに踏み込んでいない。
8. 問題の根本を探すことよりも、表面的な徴候の解明に努めている。

マスタリー修得の指標
1. クライアントの最重要課題が特定され、言明されている。
2. クライアントは自分が理解されていると実感している。
3. クライアントのエネルギーが増大している。
4. 以下のようにクライアントの状況に対する見方が変化しており、その結果、
   a) 焦点がよりはっきりとしている。
   b) 明快さが増し、不安や混乱が減少している。
   c) それまで認識されていなかった情報が明らかになっている。
   d) 思考、行動、意味などに新しい可能性が生じている。
5. クライアントが自己認識を高め、あるいは新しい視点から自分自身を観察することができている。

© 2007 International Association of Coaching ®

注釈:	注釈:	注釈:

© 2007 International Association of Coaching ®

スコア:	**#7.** 明確な意志の設定と持続		
定義 効果 キーポイント 相違点 クライアントが目指す目標に向けて集中力るようサポートする。 2. クライアントは自の方向性を明白にする。	1. クライアントは自分が有能だと感じている。 1. クラ分が何を達成、あるいは変容さ 2. 最も重要なものに留意 3. クライアントは可能性によって触発されている。 4. 4. クライアントは目的意識を持って前身している。 ・称	イアントの意志と目標を尋ねる。 変容□対 変化する。 □進歩 対 動き せたいのかが明確になっ プロセスと意志の定期的な見直し・修正 賛を行なう。	を持続させ ている。 3. 進歩

効果的な行動の例コーチは:

1. クライアントが何を意図しているかを絶えず明確にしている。
2. クライアントにとって何が重要なのかを把握している。
3. クライアントの意図が明らかになるような質問をしている 。
4. クライアントを重要な論点に引き戻す。
5. クライアントの意図の言い換えを行なうことで価値を与えている。
6. クライアントの目標と優先事項を尊重しながら、その意図や思い込みに対し問いかけをしている。
7. クライアントが意思を明白にするために役立つ資源(モデル、ツール、本、 アセスメント等)を提供している。
8. クライアントのニーズや願望の変化を認識し、それについて尋ね、対応している。
9. クライアントの価値にコーチングのポイントと意図を整合させている。
10. クライアントの価値観や信念がいかにクライアントの意志を支えるかを理解している。

非効果的な行動の例コーチは:

1. すでに関連性の無くなった目標に向けてクライアントを進ませている。
2. 意思が明確でないまま前進している。
3. クライアントをコーチの課題あるいは方法論に従わせようとしたり、不適当な影響を与えている。
4. クライアントを勘ぐっている。
5. 表明された目標からクライアントが脱線し
   てもそれに合わせている。

マスタ リー修得の指標

1. クライアントは将来についてより活発になり、あるいは自信を持っている。
2. クライアントは現在についてより活発になり、あるいは自信を持っている。
3. クライアントはより多くの責任を請け負うことに同意している。
4. クライアントは精神的な障害を取除く「気づき」を体験している。
5. クライアントは新しい方向、新たな責任、技術または計画に焦点を合わせ、活発化している。

© 2007 International Association of Coaching ®

注釈:	注釈:	注釈:

スコア:

#8.可能性の拡大

定義

アイディア、選択肢、機会が出現するような環境の創出。

効果

1. コーチは思考と行動の拡大を可能にする。
2. クライアントはより多くのことを自覚している。
3. コーチはクライアントが障壁を超越するよう援助する。
4. クライアントは意欲的に快適帯（コンフォートゾーン）を飛び出す。
5. クライアントの選択肢が増えている。

キーポイント

相違点

1. 信頼、開放性、好奇心、 勇気、潜在性の自覚。
   ・初心 対
2. コーチとクライアントは探索および発見を通した 専門性の押し付け コミュニケーションをとる。 ・創造的 対 規範的
3. 「内的可能性」(例、個人的な偉大さ、より高い目 ・拡大 対 決定的) および「外的可能性」(例、資源、ミーム（情報伝達の単位）)を認識する。
4. 可能性はコーチ、クライアントおよび二人の協働によって発生する。

© 2007 International Association of Coaching ®

効果的な行動の例コーチは:	非効果的な行動の例コーチは:	マスタリー修得の指標
1. 的確なツールとテクニックを使用して可能性を呼び込み、拡大のための環境作りを行なっている。 2. クライアントの選択肢を拡大するために様々なシナリオ、環境や文化を駆使している。 3. 発見のプロセスを増進させるための質問を用意している。 4. 思い込みの効果を最小限に止めている。 5. 行動と進歩の方向性が確立した時点でクライアントとのブレインストーミングを行っている。 6. クライアントがより大きな視点で可能性を捉えられるよう援助している。 7. クライアントを拡大させる必要性があるときは挑発的である。 8. たとえクライアントが躊躇しても、可能性をあきらめない。 9. 未知のものが自ら姿を表すことを期待している。 10. 最も野心的な選択肢を模索するようクライアントを励ましている。	1. 2. 特定のフレームワークやプロセスに執着している。 3. 特定の結果や答えを求めている。 4. 問題解決を急いでいる。 5. クライアントが思い込んでいる限界を受け入れている。 6. 誘導質問をしている。または 質問が多すぎる。 クライアントの「物語」が可能性の模索を制限してしまうことを許している。	1. 会話が新鮮で未体験のゾーンに入っている。 2. クライアントが自ら驚くような発見をしている。 3. クライアントが受容的で、拡大、援助、他のアイディアの可能性を認識している。 4. コーチが新たな可能性を提示している。 5. クライアントが新たな可能性を提示している。 6. クライアントは新たな可能性、あるいはそのプロセスを受け入れることに対して、誠実な熱意を示している。
注釈:	注釈:	注釈:

© 2007 International Association of Coaching ®

スコア:	#9.支援システム・構造の構築と活用

定義	効果	キーポイント	相違点
クライアントが進歩し、それを維持するのために必要な、関係、ツール、システム、構造を把握し、構築するよう助ける。	クライアントは必要な資源が入手可能、あるいはそれを作り出すことができると知ることで、前進することに自信と安心を感じている。	1. コーチはクライアントのニーズにとって適切かつ実現可能な支援システムと構造を提案している。 2. コーチは、クライアントが現在持ってはいるものの、効果的に活用されていない支援システム・構造をクライアントに特定させている。 3. コーチは、クライアントが支援と構造の必要性を感じている分野を把握するのを助けている。 4. クライアントは適切な支援システムの価値を理解している。 5. 目標あるいは意志に向けてクライアントがより持続的に進歩を続けている。	• 支援的な構造 対プロセスの抑圧 • 補足 対 重複 • 促進 対 圧倒

© 2007 International Association of Coaching ®

効果的な行動の例コーチは:	非効果的な行動の例コーチは:	マスタリー修得の指標
1. 関連性のある資源（リソース）や情報を提案している。 2. 必要なシステムの特定を助け、クライアントの調査や査定、そしてシステム・構造の実施の可能性についてフィードバックを引き出している。 3. 支援的で補足的なシステムと構造の提案に敏感である。 4. システムと構造を通した能力拡大の方法を積極的に見出そうとしている。 5. システムと構造が持続可能なものかどうかをクライアントが判断することを助ける。 6. リソース、システム、構造に対するクライアントの反応に介入しない。 7. 持続性を確保するためにクライアントの価値観やアイデンティティを引き出し、活用している。 8. クライアントの価値観と文化を、コーチングポイントに整合させている。	1. クライアントのニーズをまず特定することなく、資源（リソース）、構造、あるいはシステムを提案している。 2. 財政、文化、組織、性格、教育上の理由などからクライアントにとって不適格かもしれないリソースを提案している。 3. コーチ自身の好みで構造やシステムを強要しようとしている。 4. 可能な支援システムや構造としてあげられたクライアントの提案を打ち消している。 5. クライアントにとって適切である支援システムや構造を提案・奨励していない。 6. 特定された支援システムと構造を活用するにあたって、クライアントを積極的に助けていない。 7. 支援システムおよび構造の持続可能性を質していない。 8. 支援構造として活用されているのが、コーチと進歩について確認するというような「コーチに対する責任」だけとなっている。 9. システムと構造を作成しないで、クライアントに行動計画を課している。	1. コーチは、クライアントが支援システムと構造を作る作業を助ける上で創造的であり、クライアントが採択するアイデアが何であれ、介入しない。 2. クライアントはこれまでに明確にされていなかった資源を自覚している。 3. クライアントは既存の資源の活用あるいは新しい資源の創造を通して、システムと構造の価値に対する評価あるいは理解を表している。 4. クライアントは、資源の活用・発見・創造の責任を受け入れている。 5. クライアントは、この新たな見解あるいは責任感に勇気づけられていることを認識している。 6. コーチは支援システムと構造の持続性を質している質している。 7. コーチは行動計画と支援システムを区別できている。
注釈:	注釈:	注釈:

© 2007 International Association of Coaching ®

© 2007 International Association of Coaching ®

© 2007 International Association of Coaching ®